

○議長（茅沼隆文）

日程第２ 一般質問を行います。質問の順序は通告順に行いたいと思いますが、御疑義ございませんか。

（「異議なし」という者多数）

○議長（茅沼隆文）

御異議なしと認めます。よって、一般質問は通告順に行うことに決まりました。

それでは、一般質問に入りますが、質問、答弁は簡潔にお願いいたします。

それでは、６番、菊川敬人議員、どうぞ。

○６番（菊川敬人）

皆様、おはようございます。本日は台風２１号の接近で大雨の中、多くの傍聴の方にお越しいただきました。少し気を引き締めて、緊張しながら質問を進めたいと思います。

では、町長２期目の総括と３期目へ向けた決意を問うということでございます。

町長２期目の就任から約３年半にわたり、府川町政のかじ取りをされ、町の発展に寄与されてきました。しかし、景気の回復について日本銀行の対策が図られるも、低迷した景気は一向に上向かず、町では町政運営に不可欠な財源確保をはじめ、異常気象に対する災害対策、また人口減少の対策など、想定外の事案が山積みした２期目であったと思われます。

誰もが住みたい、住み続けたいとの思いをかなえる施策を、２期目へ向けマニフェストに数多く明記されています。これらの施策で、子育て支援へ向けた町単独の支援策、大型公共事業の着手など、新たなまちづくりが進められたことを実感できます。中でも、人口の増加をはじめ、「田舎モダン」は開成町のまちづくりの一環として定着したことが実感できます。町外からも、評価の声を耳にする機会が増えております。

一方では、府川町政で町が成長する確固たる施策は何であるのか、どこにリーダーシップの根源があるのかとの声も聞こえております。まだ半年の任期を残しておりますが、ここで２期目を総括して、その結果を報告していただくとともに、町長自らの言葉で３期目へ向けて出馬表明を示されるべきであり、次期、３期目へ向けた決意後お伺いいたします。

以上でございます。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、菊川議員の御質問にお答えをいたします。

１期目は、平成２３年の東日本大震災の年に町長に就任をいたしました。最優先課題として、町民の皆さんの安全・安心のために地域防災計画の見直し、浸水想定避難訓練の初実施、危機管理担当部署の設置、官民５事業所との浸水災害協定の締結等、様々な防災対策に取り組んできました。

また、開成町を元気にするためには住んでいる人々を元気にすること、そのために

は身近な自治会活動が活発であることが大変重要だと考えております。開成町では、自治会を中心として、環境、福祉、防災、教育といった様々な分野での取り組みが活発に展開されており、それが町全体の元気の源となっています。各地域では、夏祭りや敬老会等、様々な独自事業が行われております。できるだけ、きめ細かく自転車で回りながら参加をし、皆さんの声を聞いてきました。小さな単位の地域づくりをさらに充実し強化していくことで、みんなで一つの町をつくっているという実感が湧く取り組みを進めてきました。

そして、2期目は、「明るい未来に向けて人と自然が輝くまち・開成」を将来像に掲げる第五次開成町総合計画を町民の皆さんとともに進めていけるようスローガンを掲げました。「日本一元気な町・日本一きれいな町・日本一健康な町を目指して」であります。これをもとに三つの戦略プランと地域ビジョンを作成し、さらに教育の町の将来像として人づくりに取り組んできました。

また、町制60周年を町の新たなスタートの年と位置づけ、町そのもののブランド化に着手しました。「田舎モダン」をコンセプトとし、広報紙などの町民生活に関わるものからイベントポスターなどの人を呼び込むための町外への発信ツールまで、あらゆるものを「田舎モダン」に基づき開成町のブランドイメージの向上を図り、「住みたい・住み続けたい町」を目指してきました。開成町に住み続けたいと思う町民の割合は、平成27年度の開成町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定時に転入者を対象としたアンケート調査では76.6%でありましたが、今年度の町民意識調査では82.2%に上昇しているなど成果が出始めております。

今年4月に、みなみ自治会という新たな自治会が誕生しました。年齢構成が50歳以下の人が約9割という、本当に若い世代の自治会であります。開成町の元気の象徴ではないでしょうか。直近の国勢調査では人口増加率が神奈川県内でトップであり、若い世代の転入者が増え、勢いのある開成町の状況が続いております。これを停滞させることなく、元気な町、誇れる町を継続していくことが大事であります。

町政運営の基本は、「町民の皆さんの目線で考え行動する」であります。これは、1期目から一貫していることであります。この気持ちで3期目も全力で町政運営に取り組んでいく所存であります。

では、平成27年6月議会で2期目の所信を述べるにあたり、選挙公約をもとに私の政策をまとめた「開成町の明るい未来に向けて三つの戦略プランと地域ビジョン」の説明をいたしました。これに掲げた項目を振り返り、現時点での2期目の総括とさせていただきます。

戦略プランの一つ目は、子どもが元気な町づくり。

平成28年4月に開成駅東口前に子育て支援センターをオープンし、いつでも気楽に立ち寄り相談することができるようになり、平成28年度、平成29年度ともに延べ4,000人を超える親子が利用されております。また、ファミリーサポートセンターを併設し、効率的で使いやすい体制にいたしました。

小児医療費助成を平成27年10月に小学校6年生まで引き上げ、今月からは中学

3年生まで引き上げをいたします。保護者の経済的負担を軽減し、子育て環境を充実させました。

開成幼稚園は、平成31年4月からの3年間教育導入に備えるために、平成29年度に園舎の大規模改修を実施し、空調設備の設置や外壁塗装等により装いが新たになりました。

北海道幕別町の子どもたちとの交流も再開をし、町同士のきずなも深めることができました。

戦略プラン二つ目は、暮らしやすくきれいな町づくりであります。

開成町の目指す町は、「田舎モダン」な町です。自然環境はきちんと守り、なおかつ、おしゃれで便利なところもあわせ持つところが必要であります。開成町は、網の目のように水路が張りめぐらされております。その良さを維持するために、毎年、水質検査を町内全13地点で行い、環境基準の類型でAAからAを維持していることを確認しております。この数値は、ホテルやアユがすすめる基準であります。また、下水道整備も平成29年度末で82.4%の面整備率であり、水路の浄化に寄与をしております。

町内巡回バスは、平成27年度からの試行期間を経て、平成29年度から町内を2系統の2台体制で本格運行を開始いたしました。2カ所の子育て支援センターにバス停を増設することで、高齢者の足の確保のみならず、子育て中の若い親子の皆さんの利用もされるようになり、現在では1日平均利用者が40人を超えている状況であります。

新エネルギー導入では、平成27年度に開成小学校と文命中学校に太陽光発電設備を設置し、補助制度によりHEMS（ホーム・エネルギー・マネジメント・システム）の普及をし、翌年からはゼロ・エネルギー・ハウスの補助制度により、その普及促進を行いました。また、BELS（建築物省エネルギー性能表示制度）から五つ星の評価をいただき、環境省の補助金を獲得し、国内初のZEB（ゼロ・エネルギー・ビル）庁舎を目指して先月、新庁舎建設に着工したところであります。

戦略プランの三つ目は、皆が生き生きと健康な町づくりであります。

平成29年度に神奈川県未病センターの認証を取得し、普段の自分の健康状態をチェックできる「未病見える化コーナー」を開設し、様々な健康測定機器を町民が手軽に利用できる環境を整え健康意識の向上を図りました。今年度から、運動指導の専門家による運動の実技指導を充実させております。さらに、保健師を1名増員したほかにも、平成28年度に子どもから成人、高齢者までのライフステージに応じた食育を推進するために管理栄養士を採用しました。平成29年度には相談体制の充実のために社会福祉士を増員するなど、専門職員の確保に取り組みをいたしました。

次に、地域ビジョンについて説明をさせていただきます。

北部地域は、江戸時代から続く300年の古民家、瀬戸屋敷の管理運営方式を指定管理者制度に移行し、ここを拠点に開成町の魅力や農業を発信していくこととしました。あわせて、カフェを設置することで若い世代の利用者が増えました。あしがり郷

交流拠点整備事業が平成２８年度に地方創生の地域再生計画に認められ、平成３０年度は駐車場用地の購入と現在ある道具館を直売所、加工所、案内所、トイレ等に改修するための実施設計を進めております。

町の北部振興に移行して、新規民間事業者の進出により自家醸造が休止されていた酒蔵が今年３月に蔵開きが行われ、６月には３８年ぶりに開成町産の日本酒の販売が開始されました。

自由に遊べる子どもパークは、常設化には至りませんでした。プレイパーク事業として平成２８年度から金井島緑陰自由運動広場をはじめ町内３カ所で開催をし、担い手となる団体の育成に取り組んでおります。

中部地域は、新庁舎建設工事が先月からはじまりました。防災の拠点、ＺＥＢ庁舎、ワンストップサービスを特色としております。将来の財政負担について御心配する御意見もありましたが、日本初のＺＥＢ庁舎として環境省から補助金獲得の目途が立ちました。また、施工者選定方式を条件つき一般競争入札と総合評価落札方式を組み合わせることで、確かな技術による品質の確保とコストの削減を実現いたしました。

身近な生活道路や水路については、町道改良は町道２０４号線をはじめ総合計画前期基本計画に位置づけた路線に着手をしております。また、町道維持整備については、路面性状調査の結果を踏まえ、町道２２７号線をはじめとして舗装の打ちかえを実施しました。水路整備は、平成２２年の台風９号などによる被害状況等を検証して計画的に改修を進めております。

南部地域は、開成駅周辺を活気があり、にぎやかな地域にするため、駅東口に子育て支援センター、開成町駅前窓口コーナー、パレットガーデン自治会館を整備いたしました。駅前窓口コーナーでは、平成２９年度１年間で３，７３５件の御利用をいただき、丁寧な対応だと御好評を得ております。

医療機関については、この４年間で内科、小児科、産婦人科等の医院が南部地域での５院を含む町内で６院、新たに開院し、医療の提供体制が充実をしました。町民が身近な地域で安心して医療を受けることができることは、町が元気で人口が増加していることと関係しており、定住人口にもつながるものだと考えております。

良好な市街地の形成及び都市計画道路駅前通り線の整備による都市機能の強化を図るため、駅前通り線未整備区域について、土地区画整理事業に向けて事業計画（案）などを作成するとともに、合意形成に向けた取り組みを進めております。

以上、三つの戦略プランと地域ビジョンについて御説明をいたしました。加えて所信表明では人づくり、教育にも力を入れていきたいと述べました。学校の勉強とともに学力も体力も道徳心もすぐれた子どもを育てる、全町民がかかわれる仕組みづくり、地域力の活用の基本的な考えをお示ししました。教育委員会では、私の思いを御理解いただき、多くの町民や企業などの地域の皆さんにかかわっていただき、多岐にわたるテーマで子どもたちに学習の機会を提供するあじさい塾の充実を図り、大きな成果を上げていると考えております。

以上のように、今期の所信表明で示した取り組みについては、達成済みのものから

現在も取り組み中のものまで、大方達成できたと考えております。しかし、この中で現在も取り組み中となっている主要な事業が三つあります。

一つ目は、北部地域活性化のための瀬戸屋敷周辺整備であります。駐車場の拡大、直売所、加工所、案内所等の交流拠点整備を進めております。平成29年度に基本設計を作成いたしました。平成30年度は実施設計を行い、平成31年度に完成する予定であります。あわせて、県道720号線金井島区間における歩道整備であります。県は今年度、既に測量調査をはじめております。町としても、地元の合意形成など協力していき、早期の整備が図られるよう努めてまいります。

二つ目は、新庁舎建設です。新庁舎の業務開始は2020年4月を予定しております。建設工事は事故などのないように着実に進めてまいります。あわせて役場利用者に優しいサービスの一つとして窓口のワンストップサービスの実現に向け推進中であります。

三つ目は、開成駅に快速急行、急行が停まるにふさわしい駅周辺整備であります。駅前交番の誘致をすることは喫緊の課題と考えており、これからも継続して取り組んでいきます。また、駅西口の再整備も検討をはじめたところでありますが、着実に進めていきたいと考えております。

これらの継続中の事業をきちんと仕上げていくことは、私に課せられた責務であると考えております。

2期目の公約は第五次開成町総合計画の前期基本計画に沿って作成をいたしましたが、社会情勢の変化などを踏まえ、3期目は「いつまでも住み続けたいと思えるまちづくり」を基本姿勢に、開成町の元気な町、誇れる町を着実に進歩させていきたいと考えております。

それでは、六つの課題に整理しながら、3期目に向けた私の方針について申しあげたいと思います。

一つ、人口の年齢構成の変化への対応であります。人口の年齢構成バランスを良好に保つために、少子化への対応と超高齢社会への対応が求められております。文命中学校へのエアコンの早期設置や開成幼稚園での3年間教育の拡充など、教育環境の整備の推進と子育て環境の充実から質の向上を図っていききたいと考えております。また、未病センターを活用した健康増進や、高齢者になっても安心して住み続けることができる地域包括ケアシステムを一層進化、推進することで、超高齢社会に適したまちづくりを進めていきます。

二つ目、多様な担い手との協働であります。防災、防犯、環境美化、地域福祉など、様々な分野において地域コミュニティーが大きな役割を果たしております。これからも自治会活動を支援し、さらに多様な担い手との協働によるまちづくりを進めるために、町民活動の拠点となるサポートセンターを設置していきたいと考えております。

三つ目、安全・安心の確保であります。近年、地震だけではなく、ゲリラ豪雨や台風による水害による自然災害が多く発生をしております。ハザードマップの早期改定に引き続き、水害対策の充実を図っていきます。安心や利便性向上ために、開成駅前

の交番を早期に設置できるよう努めていきます。

四つ目、環境問題への対応。経済活動の拡大に伴い、地球温暖化、オゾン層の破壊等への地球規模での取り組みが必要であります。東日本大震災に伴う原子力発電所事故発生を契機に、再生可能エネルギーの導入が重要とされております。ZEB化した役場新庁舎を拠点に、新エネルギー利活用の啓発・推進をしていきます。また、これまで長年、取り組んできたごみ処理広域化については、着実に進めるよう取り組んでいきます。

五つ、にぎわいと活力の創出であります。地域の商工業者や農業者を元気にしていくことが、地域経済の好循環を実現していきます。開成駅周辺整備を推進するとともに、個性豊かな産業と文化を育成する町として地域ブランドの商品化を推し進めます。そのための交流拠点整備、さらに農業の再生と六次産業化を進めていきます。また、町民の皆さんの利便性を確保するため、身近な生活道路を良好に保つ整備を重点的に進めていきたいと思っております。

六つ目、持続可能な行政サービス提供の体制の構築であります。限られた財源と人材を有効活用しながら、地域住民の暮らしを支える行政サービスを提供していきます。証明書等のコンビニ交付の実現による利便性の向上や、新庁舎での業務開始にあわせて役場利用者に優しいワンストップサービスを推進していきます。広域連携による行政サービスでは、完成間近の小田原市斎場事業、上郡1市5町で再開したごみ処理の広域化事業の着実な推進を図り、また、昨年度、上郡5町で取り組んだ、あしがら地域創生連携協議会で確認された広域連携事務事業の拡大を図っていきたいと考えております。

3期目も以上の課題解決に向けて、町民の皆さんの目線で考え行動することを今までと同様、町政運営の基本として、開成町の元気な町、誇れる町を着実に進歩させていくために、誠心誠意、町政運営に汗を流していきたいと考えております。

これをもって3期目の出馬表明ということにさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

菊川議員。

○6番（菊川敬人）

ただいま町長から就任2期目の総括、並びに3期目へ向けた決意を述べていただきました。本日は、総括について個々に質問していくということではなくて、私を感じた町長2期目の総括の中で含まれている項目について質問を進めていきたいと思っております。それでは、再質問をさせていただきます。

今、ここに町長が2期目へ向けた討議資料を出されたものを持っております。この資料のまずトップに掲げてありますことは、「祝・町制施行60周年、もっともっと元気な開成町に」を表題として掲げております。町長の任期の4年の中で、もっともっと元気を目指してまちづくりを進めていくということを見出しとして使用されております。これは、「元気」をより強調されたものではないかなと感じるわけであり

ますが、この「元気」については数値や形では表現できないものでありますが、2期目へ向けた挑戦として町長の思いがここには込められているのではないかな、そうとも感じられます。

そこで、もっともっと元気な開成町、このキーワードを使われた町長の思い、それは、ある程度は推測できますが、町長が、あえてここで、またもっともっと元気な町ということを表題として使われた、その真意をまず伺いいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

1期目は防災関係を重点的にやってきましたということの話をさせていただきましたけれども、4年間の中でも、やはり開成町は周りから見ても人口が増えて元気な町という評価を受けていました。2期目も、さらに、それを「もっともっと元気」という表現をさせてもらったのには、一つには、平成27年、開成町が村から町になって60年という大変重要な区切りの年であったというのが私の中にはあります。それを契機に、人生と同じように60年を新たなスタートとして、町としてもスタートとして進めていきたいという思いの中で、今まで以上に元気にしていきたいなど。

特に、元気にしていくために60周年を契機に何をしたかということ、ブランディング戦略を立てました。開成町の町のイメージを上げていくために、どうやったら良いかと。そのために「田舎モダン」という。開成町を一言であらわす、イメージが湧く言葉として「田舎モダン」。その絵柄ですか、それをもとに、どうやって外に発信をしていくか、様々なことを立てながらやってきました。

「田舎モダン」という言葉は、人によってとり方はあると思いますが、都会から近い中で、自然環境の良い中で、開成町は少し便利なのところもありながらおしゃれな町だよというのがありますし、少し離れた都会からの中であっても、その便利さを満喫している豊かな心で、皆さんが元気で明るい町であるというイメージもありますし。そういう町を一言で「田舎モダン」という、あらわした言葉をつくりました。

それを、どうやって今度は発信していくかということです。様々な開成町に大きなイベントがたくさんありますので、ひなまつりからはじまって先日の花火大会、これから阿波おどりもありますけれども、そのチラシ、ポスターも全て統一的な内容というか表現の絵柄にしていきたいということで。中身は分からなくても、駅でポスターを見たときに、「ああ、これ、開成町で何かやっているんだな」という、そのように分かるような一貫したものを含めて、様々、外に発信をしてきました。

おかげさまで町の広報も全部カラー化をして、「あじさいちゃん」というキャラクターを前面に打ち出しながら開成町の良さを町民の皆さんにも知っていただく中で、全国でその評価が入選という形でもあらわれましたし、様々な結果が今、出ているのかなという。開成町のイメージを上げることによって、多くの皆さんが開成町に行ってみたいな、来てみたいなという。その結果として、開成町に住んでもらう。そういう戦略の中で、ブランド戦略を立てて5年やってきました。そのことが「もっともっ

と元気にしていきたい」という、私の思いの中で２期目として表現をさせていただきました。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

菊川議員。

○６番（菊川敬人）

それでは、戦略プランについて少しお伺いしたいと思います。討議資料の中には、戦略プランの１では子どもが元気なまちづくりということで、０歳からはじめる充実の子育て支援ということになっております。ここは、先ほど、町長が総括で述べられましたが、まさしく有言実行されたかなという感じもするわけであります。

そして、戦略プラン２では暮らしやすくきれいな町、ここでは開成駅急行停車とバス路線の乗り入れが取り上げられております。御承知のように、開成駅は１９８５年、昭和６０年３月１４日に開業し、当時は１日の利用者数はごく少なかったものの、急行が停車する駅とはほど遠い存在であったと思います。平成に入り利用者が増えてまいりましたが、平成１５年では１日の乗降者数が約７，０００人、平成２０年になりましてやっと１万人をオーバーする、超す数字になっております。

昨年度、平成２９年度では、１万１，３２９人が平均の乗降者数となっております。これは、運行会社が急行を止めるための一つの要件である２万人という乗降者数には、まだほど遠い数字となっているわけであります。開成町に急行が止まることは町民や駅を利用する方が願望するところでありまして、過去にもいろいろと地道な草の根運動が展開されてきております。加えて、南部地区土地区画整理事業が終了し、定住人口を増やすための町としてＰＲする絶好のチャンスではなかろうかと思っております。千載一遇のチャンスだと私は考えております。

こうした様々な背景がある中、町長として、開成駅に急行を停めてもらうために運行会社に定期的に訪問されたということも伺っております。そうした努力が、３０年かなわなかった一つの夢が開花することにつながっていくのではないかなと実感しております。そこで、町長が開成駅に急行を停めてもらうために運行会社、あるいは、そのほか、いろいろととられた手段、努力された手段があると思うのですが、必ず開成駅に急行を止めるのだという町長の思いを、もう一度、再確認させていただきたいと思っております。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

開成駅に急行を止めるというのは、もう歴代ずっと町民の皆さんの悲願でありますし、それを着実に実現するためには、やはり乗降客数をまず数字の実績として増やしていく必要があるのかなと考えています。様々な要因はありますけれども、巡回バスの導入も、北部の人たちと駅を結ぶことによって駅の利用者を増やすというのも一つの中に入っていますし、駅周辺の区画整理が終わりましたので、できるだけここに

早く移り住んでもらうことによって駅の利用者を増やしていくという。

もう一つは、足柄紫水大橋の開通も含めて、開成だけではなくて大井町の人たちや、また南足柄市の人たちがもっともっと利用していただけるような、その数字としての実績をきちんと、やはり、願ひするには、していく必要があるのかなど。また、地域の一部の住民の皆さんも、そういう思ひの中でいろいろな要望活動を私も受けていましたので、着実に乗降客数を増やしながら。

年間、小田急電鉄の社長さんには3回ほど会う機会がありますので、必ず、そのときには開成町の今の現状や開成町がこれからどういう町を目指していくのかを含めてお話をしながら、開成駅に急行を停めていただくことによって小田急にとってもメリットがあるという話をさせていただいた中で、今回、小田急さんにとっても急行を止めることによってのメリットがあらわれてきたのかなど。

それについて、これから小田急さんといろいろな話し合いをしながら、駅前を含めて、もっともっと整備を考えていく必要があるのかなと思っておりますし、これからも開成町を元気にするためのすごく大事な開成駅急行停車でありますので、これを契機に、もっともっと元気にしていきたいと考えております。

○議長（茅沼隆文）

菊川議員。

○6番（菊川敬人）

長年の町民の願ひでもありますので、今後ともよろしく願ひしたいと思ひます。

それでは、地域ビジョンの中から一つお伺ひいたします。北部地域を農業の再生と六次産業化のモデル地域にしますとして、それで、瀬戸屋敷周辺の整備がそこには掲げられております。直接、町が主体となつて行うものには、農産物の加工所や、あるいは直売所の整備があろうかと思ひます。これは、地域活性化の観点からして大変有効な施策ではなかろうかと、歓迎する節もあります。

しかしながら、加工所や直売所の内容について、あるいは運用の詳細がまだ明確に示されておられません。本当に住民や団体が望む形態であるのか、一抹の不安があります。過去のまちづくりで北部に光が当たらない、そう言われてきたところを、活性化の道筋ができたということで、さらにこの計画を加速させていただきたいと考えております。

また、中部地域の文化・コミュニティー拠点では、町の生活道路や水路の重点整備が掲げられました。近年、道路や水路の改修工事は計画的に実施されているように思ひます。特に、水路においては15年あるいは50年に一度といった特別な大雨を一つの尺度としておりますが、昨今では「今までにない大雨」とか、あるいは「命に危険を及ぼす」といった表現がされております。町における河川の維持管理は、本当に万全なのでしょうか。2級河川も含めて、町の河川の状況についてお伺ひいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

開成町は昭和40年に全域を都市計画決定して、北部地域、中部地域、南部地域と、土地の利用を歴代の人たちがきちんと計画をして、北部地域は農業を守って自然環境を大事にしていく地域であり、中部地域は小学校、中学校、役場をはじめ公共施設のある既存の市街地、南部地域は駅周辺を整備することによって新しい町をつくっていったという、こういう歴代の流れの中で、私もずっとそれを継承してきましたし。

そういった中で、北部、中部、南部をバランスをとりながら、どうやって事業を計画し進めていくかという中で、2020年の東京オリンピックが決まって、神奈川県が箱根と南足柄市の道路を林道を一般道として整備をするということも決まりました。それは、やはり、すごく千載一遇のチャンスだなと考えた。そのために、では何をするか。

北部地域の瀬戸屋敷周辺整備をきちんとすることによって、そこを北部の活性化の拠点にしていきたいなど。北部地域の課題というのは、農地を守っていくために高齢者の問題や後継者の問題がやはり課題としてあります。それをあわせて解決をしていく、簡単な話ではありませんけれども解決していく一つの手段として、やはり北部地域の生産者の所得を少しでも上げていくということはすごく大事なことです。

最初に取り組んだのが、里芋の弥一芋をもう一度、復活を地域の人たちにしていたので、これをイオングループにアルチザンとして認定をしていただいて、買っていただくルートはでき上がりました。様々な北部地域のものを直接、売ったり、また、それを商品化して六次産業化することによって雇用を確保したりすることができたとしても、売る場所が、拠点がないと、なかなかそれが進んでいかないのではないかとということで、瀬戸屋敷をうまく活用して農業の活性化も含めてやっていきたいというのが、北部地域、今、取り組んでいる最中でありますので。

そういう中で、北部に対してもバランス良く力を入れているつもりでありますし、中部については、もちろん新庁舎建設をはじめとして生活道路、身近な道路の課題もたくさんありますので、そういうバランスをとりながらやってきました。

今、災害の話でありましたけれども、先ほども2期目の総括の中でお話をさせていただきましたけれども、平成22年に橋が、橋が落ちたのは19年ですか、22年にも、またゲリラ豪雨をはじめ開成町でも町内の河川があふれ出たということがありまして、それを様々な検証をさせていただきました。計画的に、いつまでにどこをやるというものを、きちんと計画書をつくりながら、それにのっとり、この何年間、ずっと整備をしてきましたので。大きなところは、まだ長期の中で進めていく箇所は確かにありますけれども、そういった中で、きちんと順次、着実に河川整備もしてきたと考えております。

○議長（茅沼隆文）

菊川議員。

○6番（菊川敬人）

防災に関しては、特にゲリラ豪雨は全く我々が経験したことのないような雨量となっておりまして、計画的な改修をよろしくお願いしたいと思います。

それでは、ハード面から、今度は財政面のことについて、ちょっとお伺いいたします。町の財政面については、非常に重要でありますので。過去３年間の町の運営で最も重要であります健全化判断比率では、実質赤字額または連結赤字額がないために、実質赤字比率、連結赤字比率ともにマイナス、となっております。実質公債費比率及び将来負担比率は、ともに平成２７年から減少しております。

それでは、個別にお伺いしたいと思います。経常収支比率です。自治体の財政構造の弾力性を示すものでありますが、平成２７年度は８４．３％でありました。平成２９年度では、８３．５％と弾力性が増しております。これは、県内の平均が平成２８年度では９４．７％、２９年度の決算が終えておりませんので２８年度ベースで考えますと、マイナス１０ポイントを下回る良好な状態ではないかと思えます。

標準財政規模と公債費の関係で示される実質公債費比率も、平成２７年度１０．２％から平成２９年度６．７％と減少しております。この数字は、今後、新庁舎建設に伴い起債がありますので、変化してくるものと考えます。

それから、財政力指数を見ますと、これは地方公共団体の財政力の強弱を示すものでありますが、平成２７年度は０．８８３でありましたが、平成２９年度は０．９０３と上向いてきております。こうした財政力指数の分析から経営が健全であると判断ができるわけではありますが、この数値は決して自然に良くなるわけではないと思います。町長として、特にこの辺のところに力を入れてこられたこと、そして、これらの現況の数値についてどう考えておられるか、できれば今後についての所感もお伺いできればと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

今、菊川議員から細かい数値的な話も出ましたけれども、これからの９月決算議会の中の資料を今、私も持ってきたのですけれども、ここに全て過去６年間の様々な数値の指標の流れが全部、出ています。北海道夕張市が財政破綻をしたということで、国からも様々な指標があらわされて、その数値以下でなければ様々な問題が出てきますので、そういう点においては、毎年、監査の講評の中でもきちんと健全財政の中で運営されているという評価はいただいておりますけれども。

この中で、特に、様々、今回、庁舎建設も含めて言われている、財政的負担は大丈夫なのかということがありますので、その中の一つとしてちょっと話をさせていただきたいと思っておりますけれども、この中に実質公債費比率、３年平均というのが出ています。平成２４年が１１％、２５年が１１．２％、２６年が１１．３％、２７年が１０．２％、２８年が８．２％、今年度６．７％、数字が下がっています。これは、やはり今、言われたように、何もしないで下がってくるわけではなくて、きちんと計画を立てて、どういう財政でやっていくのが必要かという。

特に、この平成２４年、２５年、２６年というのは、やはり過去の、例えば福祉会館をつくったり開成南小学校をつくったり水辺公園を整備したりという、大きな借り

入れをしている年があるわけです。そういうのをきちんと、毎年、どれだけ返済をしているか、この数字で見ると、ある程度、分かるわけです。それを、これから庁舎整備が30年からあるわけですので、それまでに、できるだけ公債費比率、町の借り入れの返済の負担を減らしていくかということで、ここ近年、ずっと町自体の借り入れをできるだけ抑えながらやってきた結果として、今年度は6.7%という低い数字になっていると思います。

これから30年度、31年度で役場庁舎の建てかえのために借り入れがされます。そうした中でシミュレーションとして我々はきちんと考えておりますけれども、32年には、これが8.4%、35年には9.7%になるだろうと。そう考えても、過去の24年、25年から比べても低い数字であるという。これがきちんとした客観的な数字だと思っていますので、多くの皆さんがそういう不安があるという声は聞いておりますけれども、きちんと公に出された数字の中で、議会の皆さんにも、この6年間の数字の変化、ほかの数字も様々、もちろんありますけれども、一つ例として今、挙げさせていただきましたが、そういう中できちんと財政的にやっているということをぜひ御理解をいただきたいなと思います。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

菊川議員。

○6番（菊川敬人）

それから、私が思いますに、町長2期目の中で大きな事業としては庁舎の建設の着手があると思います。これは、有事の際に職員の方、100人を超す職員の方の生命にかかわることです。現庁舎は昭和45年4月に竣工され、既に48年が過ぎております。新庁舎建設までにはちょうど50年ということになるわけですが、コンクリートの建築物の耐用年数は50年とも言われておりますが、安全に使用できるちょうど限界に来ているところではないかと思っています。

このことについては、8年、9年くらい前から、建てかえのための基金を積み立てたほうがよろしいのではないかということを書いてきたわけですが、計画的な基金の積み立てをされて、8億でしたか、基金が積み立てされておりますので、非常に良好な運用をされていると考えております。

一つ、苦言を呈したいことがありまして。これは、先日、情報誌によりまして庁舎建設の起工式が行われたということを知りました。これを見まして、私はちょっとがっかりしたところがありまして。私たちは、平成27年の11月に、開成町新庁舎建設推進部会の中で新庁舎の建設に関する調査特別委員会というものを設置することを決定いたしました。その後、紆余曲折ありましたが、いろいろな形で議論を進めてまいりました。ここの部分が少し軽視されたのではないかなという感じがいたします。

実際には施工業者の方が主体となって起工式を行われるわけですが、私の考えといたしましては、そういった経緯があった中で何もアナウンスがないということは、直近の8月20日あるいは7月20日の全員協議会の中でもなかったわけであり

ますが、そのことに対して。これは町長に言うべきかどうかは、もしかして違うのかもしれませんが、アナウンスがなかったということで、ほかの議員も同じような考えを持っておられるのではないかなと思います。ちょっとがっかりしたということから、苦言を呈させていただきたいと思います。

そこで伺いたいのは、新庁舎を建設することで町が見出すメリット、経済的な効果あるいは資金の調達等もありますが、そういったことについて、十分検討されてシミュレーションされて進めてこられましたが、このところを町長に再度確認したいと思います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

はじめに、新庁舎の起工式の件が議会の皆さんに情報として流れていなかったということであれば、おわびをさせていただきます。我々から見れば、議長さんに案内を出して副議長さんに当日、出ていただきましたので、伝わっているのかなという勘違いということであれば、これは最初におわびをさせていただきたいと思います。様々、特別委員会をつくって、ここまで議論していただいたことを考えれば、ちょっと情報提供が足りなかったのかなと思います。

役場庁舎の一番の大きな特色は、東日本大震災を含めて様々、その後も熊本地震、大きな災害があつて、防災の拠点である庁舎が崩れて、その後、町民の皆さんが復興に向けて大変な思いをしているというのがやはり一番大きなところでありましたので、平成23年の東日本大震災から庁舎整備を進めていく方向でずっと来て、もう7年、ここまでかかっておりますけれども。やはり一番は町民の皆さんの安全・安心のために、確かに整備にはお金がかかりますけれども大事なことだと。先のために、これは必要な事業だと。

その中で、防災の拠点は、もちろん当然なのですけれども、それに何をさらに上乘せしていくかという。今の役場庁舎の状況からいけば、狭くて町民サービスができていないと。役場、町民センター、行ったり来たりという、そういうものの様々な解消はきちんとしていかなければいけない。そういうためにワンストップサービスにしていきたいというのが、二つ目であります。三つ目は、東日本大震災の原子力の影響を受けて、再生エネルギーにかかわるものをきちんと庁舎の整備の中に盛り込んでいきたいという思いの中でZEB庁舎を目指してきました。

そういう様々な職員も国への情報収集ほか、した結果として、環境省の補助金の目途が立ちました。来年度、国の予算がまだ通っていませんし、確定していませんのではっきりは言えませんが、億単位のお金が補助金として獲得できる。入札方式も含めて、先ほどお話ししましたが、総合評価方式にすることによって、安心できる事業者で、かつ入札の金額も、9月1日の広報にも出させていただきましたけれども、1割減ぐらいの入札金額ということで、両方を合わせると5億から6億近い予算減、今まで考えていたよりも安くできるのかなという。

様々な皆さん方の不安を払拭するために努力をしながら、ここまでやってきたという思いがあります。あとは、もう、あと1年半、できるだけ安全に、町民の皆さんに迷惑をかけることなく、きちんと庁舎を建てていくということが大きな使命として残っているかなと考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

菊川議員。

○6番（菊川敬人）

半世紀に一度の大イベントといいますか、そういう事業だと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、ここで3期目に向けて、本日、町長は3期目の出馬を表明されたわけがありますので、3期目へ向けた決意の中の6項目の中の一つだけ、お伺いしたいと思います。

安全・安心の確保というところがありました。はじめに、2期目では府川町長のカラーが色濃く出たかなと思います。その力強いリーダーシップで町政運営に当たっていただきたいと願望するところではありますが、近年の気象状況等、先ほども申しあげましたが、天変地異というか異常気象が及ぼす影響は今までの常識が通用しないものとなっております。短時間での集中的な大雨が降るゲリラ豪雨や、連続的に何日も猛暑が続き、生命の危険を感じるものが、いまや通常の状態となってしまいました。

こうした状況を回避するための教育環境の整備が急務と考えます。災害大国として、特に災害に関しては自助、共助、公助ということがあるわけではありますが、町として国の指導のもと作成されました地域防災計画があります。これが有事において本当に機能できるのかどうか、検証することが私は肝要ではないかと思います。地域防災計画で示されております内容であっても、いざというとき、有事のときに、本当にその行動が。誰がそのことを行うのか、誰にどう伝えれば良いのかということ、ここのところの検証をしっかりと進めていくべきではないかなと思います。

私たちは、有事の際は、何といたっても自助を基本として行動することになると思います。一度に複数の方が行政に対して公助を求めてきても、対応は不可能ではないかと思います。このような事柄を検証することや、それぞれの市・町単独で災害対応をするということだけでなく、有事の際は広域での対応もししっかりと考慮する必要があるのではないかと思います。そのために、広域において防災協定等の締結をする必要もあろうかなと思います。この広域防災協定の必要性について、町長は3期目でどう考えていかれるか、お伺いしたいと思います。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

先日、防災訓練を実施しました。これは、地震が起きた場合の想定訓練であります。今日のように台風が頻発すると、やはり水害の訓練をきちんと改めてやっておく

必要があるのかなと。特に、開成町に沿って二級河川の酒匂川という大きな川があります。つい先日、開成町内を流れる二級河川、仙了川、要定川の県による浸水想定区域図というのが、7月でしたか8月に開成町に来ました。1年前には酒匂川の浸水想定図が来ました。

実は、計画的には来年度、それをもとにハザードマップをつくって訓練をやっているという計画だったのですが、これだけの水害、ゲリラ豪雨が集中してくると、それはそこまで延ばす時間がもうないなという判断の中で、今回、9月の補正予算の中で、県からそういう浸水時の想定が出てきましたので、それをもとに補正予算を組ませていただいて、ハザードマップを緊急につくらせていただいて、それをもとに来年の2月には浸水時の想定訓練をしていきたいと。

地震と違って避難場所が変わってくるということをきちんと改めて町民の皆さんに理解してもらって、一人一人がどこに本当に逃げたら良いのか、そういうことを一人一人に考えてもらう訓練をきちんと改めてやっていく必要性がすごく近年の中で出てきたということで、今回、緊急ですが、補正予算に上げさせていただいております。

今、広域の中の話が出ましたが、もちろん開成町だけの問題では済まない部分があって、もとを言えば、静岡県小山町の鮎沢川から来る川についての、水量も含めて、情報ができているかどうかというのが過去から言われていましたけれども、これは、今、静岡県と神奈川県とのきちんと土木も含めて連携ができるようになりまして、情報がちゃんと来るようにもなっております。酒匂川流域の開成町だけではなくて、そういう協議会もきちんと今はできておりますので、協定というよりは、普段から防災・災害についての意見交換を言う場所は、整備局という部署がきちんと今でもありますので、そういった中で、広域の中で、それぞれの役割分担の中で、どうしたら良いかも含めて、これからもきちんと連携をしながら皆さんの安全のために着実に整備を含めて進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

菊川議員。

○6番（菊川敬人）

報道等を見ておりまして、やはり広域というのは非常に重要だなという、特に防災等においては非常に重要だなという感じがいたしました。そういうところから、広域の防災協定の必要性があるのではないかということで質問させていただきました。

それでは、最後になりますけれども、これは一つ、お願いという形で質問させていただきます。これから、町も、若い人の考えを取り入れる場をもう少し設けるべきではないかと思います。例えば、お祭りやイベントを若者が企画して実行する、全てを任す、そうすることによって、町長の言われる、より元気な町につながっていくのではないかなという感じがいたします。

それから、もう一つは、開成町には小学校、中学校、高校があります。特に、高校

生のフレッシュな考え方というのは、我々の想像を絶するものがあります。町のブランド品についても、現状では、いつ、どこへ行って買えば良いのか、その入手方法が明確ではありません。こうしたところへ高校生のフレッシュなセンスを取り入れるということ、あるいは、そうすることによって開成ブランドの再生にもつながるのではないかなと考えます。それから、ふるさと納税の返礼品についても、若者層が注目するようなものをそこで聞き出すとか、もう少し幅広い状況にしてはいかがかなと思います。

それから、かなり前になりますが、これは小学生の子ども議会というのがありました。こうしたものをやることを、ぜひお勧めしたいと思います。子ども議会でなくても、若いお母さん、ママさん議会でも結構ですから、何か、そういったものを復活させていただければなと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（茅沼隆文）

町長。

○町長（府川裕一）

昨年、初めて町民集会の中で子育てをしている若いお母さんたちを対象にタウンミーティングをさせていただいて、やはり直接、生の声を聞かせていただいたというのはすごく良かったなと思いますし、今、若い人のお話で、地元には吉田島総合高校がありますし、先日の防災訓練も、災害協定を結んでおる中で、初めて吉田島高校の先生と生徒も一緒に参加して訓練をさせていただきました。

開成町にとっては、北部の酒米、これからの問題として酒米、弥一芋、様々なものがありますので、今の関係も含めて、地元にせつかくある若い高校生がいるところともう少し中身の連携を深めながら、酒米だけではなくて、意見を聞ける場をこれからもつくっていきたいと考えています。

以上です。

○議長（茅沼隆文）

菊川議員。

○6番（菊川敬人）

町長の2期目の総括を伺ったのにあわせて、3期目の決意を伺うことができました。私の質問は、以上で終了させていただきます。

○議長（茅沼隆文）

これで菊川議員の一般質問を終了いたします。